

まつの話題

浜B餅つき大会

2月27日、浜B地区「ひな祭りふれあい餅つき大会」が矢部小学校で行われました。今回で5回目を迎えたこの餅つき大会は、地区内の世代間交流を図る目的で開催されています。この日もお年寄りから子どもまで70名の賑やかな声が会場に響きました。



いのちの輝きあふれる絵画展

現在、観光案内所ギャラリー「喫茶ルボン」では、「きらきらいのち」と題した絵画展が開催中です。熊本大学医学部付属病院で小児脳腫瘍と闘う子どもたちが描いた絵画が展示されています。辛い治療と闘いながら一日一日を大切に生きる子どもたちの、希望と夢にあふれた絵画展です。その中には、町内の学校に通う子どもたちの絵画も含まれています。展示会は4月29日まで開催予定です。



ホームヘルパーが誕生

2月8日、山都町社会福祉協議会が行ってきた訪問介護員2級課程（ホームヘルパー2級）養成講座の閉講式が開かれました。旧蘇陽町社協時代を含め今年で10回目です。矢部高校生4名や近隣町村からの参加者を含む32名が、100時間を超える講習と30時間の実習を修了し、資格を取得しました。ホームヘルパー2級を取得すると、介護が必要な方の家事援助サービスや、身体介護サービスが可能になり、修了生の福祉介護の現場での今後の活躍が期待されます。



閉講式が新たなスタートです。

こころのSOSに気づいて

2月13日、健康福祉講演会が千寿苑で開催され、振付師のわたりとしお氏を迎えて「気づくこころのSOS」と題した講演がありました。わたりさんは、テレビ番組などでの華やかな活躍の裏で、家族の自殺や自身のうつ病を経験されました。「うつ病を予防するには、マイペース（心地よい場所）・マイペース（自分の速さ）・マイウェイ（自分の考えや方向性）を身につけること。」自身の経験をを通して得たものを、来場した約300名に語りました。



講演したわたりさん

学校保健委員会研修会

山都町学校保健委員会の研修会が2月18日に中央公民館で行われました。はじめに養護教育委員会が行った、医薬品に関する説明会についての報告がありました。薬を水で飲む理由を児童に説明するための実験が会場でも行われ、水以外の液体に薬を入れたときの化学反応に出席者は驚いていました。その後、健康福祉課の生活習慣病に関する報告と、県教育庁指導主事の原田力子氏による食育の推進に関する講演も行われました。



薬は水で飲みましょう。

小ヶ蔵に11組のおひなさま

小ヶ蔵公民館にきらびやかな11組のおひなさまが並びました。これは、小ヶ蔵地区女性部11名のみなさんが、新聞紙や菓子の包装紙など家庭の不用品を使っ



て製作したものです。小ヶ蔵女性部では毎年手芸作品を製作していて、これまでに焼酎パックを利用した座いすなどを作り、地域の方々に好評を得ているそうです。「今年もよくできました」と満足の表情のみなさんでした。

はじめての女性研修会

2月20日、山都町女性研修会が千寿苑で行われました。今回地域の女性団体がその枠組みを越えて初めて合同実行委員会を組織し、「町を見つめ直し、女性がちまづくりに携わる意識づけ」をテーマに開催されました。講演では、参加した約200名を前に、火の国未来づくりネットワーク代表の本田節（せつ）氏がボランティア活動や郷土料理レストラン設立の経験を基に「男女が共に責任を負わなければ、本当の地域づくりはできない」と語りました。



講演した本田節さん

愛林駅伝

第56回を迎えた愛林駅伝競走大会が2月26日に開催されました。町内の矢部、清和、蘇陽の3中学校と町外4中学校から16チームが参加、千寿苑をスタート・ゴールとする、周回コースで健脚を競いました。レースは序盤から甲佐中Aがリードする展開。その後も安定した走りを続けた甲佐中Aが一度も首位を譲らずゴールテープを切りました。町勢では蘇陽中Aの4位が最高でした。清和中・蘇陽中は3チームずつ参加し、大会を盛り上げました。



卒業の思い出に

2月27日、卒業を控えた矢部小6年生44名とその保護者が、通潤橋の歴史を学びました。これは、卒業の記念に地域の歴史を学びながら、ふるさとの良さを知ってもらおうと保護者と学校が企画したもので、山都町文化財保護委員の和田静子さんが講師を務めました。矢部小ホールと通潤橋周辺をウォーキングしながらの講義に、児童と保護者は熱心に耳を傾けました。その後、学校に戻った子どもたちは、タイムカプセルを設置しました。



通潤橋の説明をする和田さん（右）